

令和元年度第1回 広島城のあり方に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城のあり方に関する懇談会

2 開催日時

令和元年10月9日（水）10:00～12:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

4 出席委員等

(1) 委員

三浦正幸委員（座長）、大庭由子委員、本田美和子委員、辻孝和委員、平野公穂委員、飯田稔督委員、上田宗冨委員、金城一國齋委員、角倉博志委員

(2) オブザーバー

広島城館長

(3) 事務局

広島市市民局 市民局長、文化スポーツ部長、文化のまちづくり担当課長ほか

5 議事（公開）

(1) 広島城のあり方に関する懇談会開催要綱等について

(2) 座長の選任について

(3) 広島城の現状と課題等について

(4) 懇談会の進め方について

6 傍聴人の人数

3人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城のあり方に関する懇談会開催要綱【資料1】
- ・広島城のあり方に関する懇談会の公開に関する取扱要領【資料2】
- ・広島城の現状と課題等【資料3】
- ・懇談会の進め方（想定）【資料4】
- ・世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想（平成25年3月、名古屋市）【参考資料】

8 議事要旨

(1) 広島城のあり方に関する懇談会開催要綱等について

ー 事務局から資料1、資料2を説明 ー

(2) 座長の選任について

(事務局)

- ・ 懇談会開催要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、座長を1人置くこととしている。御意見はあるか。

(本田委員)

- ・ 長年広島城に関する研究に携わり、広島城の魅力を熟知している三浦委員にお願いしてはどうか。

(事務局)

- ・ 三浦委員を座長にとの意見があったがどうか。
ー 拍手 ー

(事務局)

- ・ それでは、三浦委員に座長をお願いしたい。三浦座長に一言挨拶をお願いしたい。

(三浦座長)

- ・ 広島城は毛利輝元が築城した城である。豊臣大阪城や聚楽第を手本としているが、単なる模倣ではなく、毛利家の独自性により造られたものと高く評価されている。
- ・ 広島城天守閣の石垣は、日本で初めて非常にきれいに磨きたてて造った天守台である。
- ・ 広島城天守閣は、原爆で倒壊せずに残っていれば日本現存最古のものであり、また屋根の数と内部の階数が同じ5重5階の構造となっており、やはり日本初である。
- ・ 天守閣の千鳥破風は、軍事的な役割を果たしておらず、飾りとしてつけられており、これも日本初である。
- ・ 広島城は福島正則の大増築で1.5km四方の大規模城郭となった。これは、江戸城、姫路城に次ぐ日本で第3位の超巨大城郭であり、また、日本の歴史上最大の平城である。
- ・ 非常に重要な城であるということを踏まえて懇談会を進めていきたい。

(事務局)

- ・ ここからの議事進行は、三浦座長にお願いする。

(3) 広島城の現状と課題等について 及び (4) 懇談会の進め方について

(三浦座長)

- ・ 議事(3)の「広島城の現状と課題等について」と議事(4)「懇談会の進め方について」は、あわせて事務局から説明をお願いする。

(事務局)

- ー 事務局から資料3、資料4、参考資料を説明 ー

(三浦座長)

- ・ たくさんの課題を挙げていただいた。1点質問だが、資料3の40ページにあるように、広島城跡整備基本計画は既に策定されている。通常の遺跡では、整備基本計画策定後に整備活用についての計画も策定するものだが、懇談会ではそれと関係なく、意見を集めるということによいか。

(事務局)

- ・ 整備基本計画を踏まえた新たな計画の策定は長期的な課題として出てくるかと思うが、今回

の懇談会の趣旨はそのとおりである。

(三浦座長)

- ・今後、文化財担当が中心となって、広島城整備活用の基本計画が作られるまでは、史跡指定範囲におけるハード整備についてはほとんどできないと思うが、今回の懇談会は計画を作るための資料になると思う。
- ・第2回懇談会までに基本構想の素案を作るために、委員の皆様にも多くの意見を頂きたい。事務局からの説明にあった多くの課題について、その要否や追加すべきもの、踏み込み不足なので内容を充実すべきというような意見があるかと思う。また、課題への対策についての意見や、新しい視点での魅力向上の提案や意見を頂きたい。

(角倉委員)

- ・ひろしま美術館では、所蔵作品が三百数十点あるうち、約二百点弱は日本洋画と日本画であるが、まだ展示しきれていない状況であり、設立50周年の2028年度を目指して、展示の拡充を検討している。
- ・インバウンドの観点では、広島城だけでなく、ひろしま美術館にも外国人の観光客が急増している。外国人から見れば、日本文化に触れたいという大きな旅行目的があり、日本文化に触れる場として広島城を訪れていると思うが、日本文化という切り口では、広島城を見た後に、ひろしま美術館において、今後展示を拡充する日本的な文化に触れる場を提供することで、回遊性を実現できればよいと思っている。
- ・具体的には、企画展のコラボレーション、合同の広報、共通割引などについて、一緒に考えることができると思う。

(辻委員)

- ・広島城や平和記念資料館の入館者数データからも分かるように、日本人観光客は減少しており、一方で、外国人観光客数は増加していることを考える必要がある。これは、日本人の人口が減り、国際交流人口は増えているという時代の変化によるものである。
- ・市街地全体が変化している。広島城の隣にサッカースタジアムが整備されることもあるが、都市再生緊急整備地域に八丁堀と紙屋町が指定され、人の流れが変わっていると思う。広島城だけでなく、周辺の中央公園、旧市民球場跡地、平和記念公園での人の流れを全体的に見て、再構築する必要がある。そのときに、広島に何を見に来ているのか、何を期待しているのかという形で、広島城のあり方や見せ方を決めておく必要がある。今までのような歴史文化の展示だけでは駄目である。座長のおっしゃるように、広島城の日本一はたくさんあるので、そういう見せ方が必要である。
- ・年間約34万人の小学生が広島に修学旅行でやって来て、大部分は広島城を訪れている。人口減少で修学旅行生も減ってきている中で、何を見せるかを考えるに当たり、ニーズ・サウンディング調査において、外国人が何を見に来ているのかという点と、広島を支える若い世代の小学生が広島城に何を求め、どういうイメージを広島城に対して持っているのかを調べてもらいたい。
- ・ピースツーリズムでも、原爆ドームではVRを活用している。現在の天守閣は建築して60年になるが、国でも文化財保護法が改正されるなどの動きがあるので、守るべきものは守りつつ、内部を斬新に変えて、VRを活用したり、バリアフリー化やグローバル化についても考える必

要がある。また、二の丸復元建物では、説明の文字が小さく、照明が暗くて読めないのも、新しい伝え方を検討する必要があると思う。

- ・ピースツーリズムの委員もしているが、来年は被爆75周年であり、その後をどう見せていくのかという課題は広島城にも当てはまる。300年近く広島を見てきた広島城のあり方について、どのように伝えたいのかというコンセプトがなければ、単に昔の歴史を展示するだけになると思う。

(大庭委員)

- ・若者の意見、若者について真剣に考えないと未来はないと思っている。大学でゼミ生や学生に広島城についてどのくらい知っているか聞いてみると、本学は県出身の学生が8割を占めているにもかかわらず、知らないとか、小学校の遠足以来行っていないという答えが多かった。一方で、ディズニーランドのリピーター率は3割を超えている。
- ・イギリスのストラットフォード・アポン・エイボンのように、広島を観光の一大拠点センターとして、県民が非日常を求めて来る場所としての拠点づくりをすることも一つの案と思う。非日常のイベントであるチームラボがこれだけ人を集めたということは、非日常不足の可能性がある。東京の人間が非日常を求めて、近くの横浜、鎌倉、千葉の鴨川シーワールドなどに行っているように、近くでもちょっとした非日常の場所としての拠点開発は不可能ではないと思う。
- ・端的に言えば、広島城の近くでは毎週末に何かイベントが必ずある、若者が楽しめる何かがあるということが定着すれば、かなり状況が変わってくると思う。イギリスでも、伝統的な町ではあるが、ビートルズ発祥の地を始め、各拠点には、若者のメッカがある。若者が来やすい街にしたら、未来につながっていくと確信しているので、その辺りを推し進めてもらいたい。

(平野委員)

- ・広島に来る外国人観光客の多くは、平和記念公園と宮島には行くが、宿泊をせず、お金を消費しないということが大きな課題となっている。広島城への外国人観光客は非常に増えているが、平和記念公園や宮島に来た方をいかに誘導していくかが本当に大きな課題である。
- ・広島城の魅力をどう出していくかということもあると思うが、広島に広島城があるということのをいかに観光客に知ってもらうか、旅の前、旅の途中で、どこでどのように発信していけばよいかをしっかりと考えていく必要がある。
- ・来年7月から、中国新聞社と広島銀行、広島電鉄で、レストハウスの指定管理を行っていく上で、どのようなことをしていくか、特に観光案内について協議をしている。観光客を、外国人観光客、修学旅行生、一般国内旅行客、地域の方と4つに大きく分類をして、この方たちにどのような形でどのような方法で情報発信ができるか、広島城であれば、広島城を知ってもらい、来てもらえるような仕掛けができるか考えていけば、広島での滞在時間も十分延びる可能性があり、また、広島城のことを知ってもらえるのではないかなと思う。

(三浦座長)

- ・平和記念公園を訪れる外国人観光客は多いが、現在分かっている外国人観光客数は、平和記念資料館に入場した人しかカウントできておらず、原爆ドームを訪れた人はカウントできていない。

- ・原爆ドームだけを見て帰る外国人観光客がおそらく多いことから、市では、平和記念公園の戦前の被爆遺構を発掘して展示することで、原爆ドームに来た方を平和記念資料館へ導くという誘導性・回遊性の確立を目標と考えている。世界遺産になっている原爆ドームや宮島にはたくさんの観光客が来ているが、そういった観光客を広島城に誘導するための非常に重要な案だと思う。

(上田委員)

- ・参考として、大阪城と名古屋城の取組が紹介されているが、両方とも大きな都市であるため、例えば熊本城のような、広島と同等クラスの都市か、あるいは都市規模はそうでなくても、先進的に色々なことに努力して取り組んでいるような情報も欲しい。元中国経済連合会会長で、中国電力の会長もされた福田督さんに、この件で相談したところ、大至急、各自で、自分たちがここだと思ような国内の場所を回ってから案を出すべきだとおっしゃっていた。もう少し情報があるほうがよいと思う。
- ・文化財保護法の規制の対象外となっている三の丸について、その外枠部分を含めて、全体としてどのように今後の展開が可能なのか、どういう意見があるかということをもう少し情報収集する必要があると思う。RCCは非常に早くから、浅野家を含め歴史ものに取り組んでいる放送局であり、こういうところと情報交換をするべきであるし、中央バレーボール場の管理・使用団体の方とも意見交換をして、プランを組み立てるべきだと思う。今回の検討は、20年、30年先を見据えたものになると思うが、最初から対象となる範囲を狭く考えすぎているという感じがする。
- ・以前、広島城内で植栽が伸びすぎているという指摘があり、今も城郭内で天守閣が見えないと説明があった。庭園は放置するとこういう状態になるので、手入れをしながら、できるだけいい状態を保たないといけない。来年が作庭400年となる縮景園は、城郭外でできた日本初の回遊式大名庭園で、大変きれいに管理されている。城内の植栽で天守閣が見えないという課題も大事だが、城郭内庭園としてどう整備し、人に見せることができるかという視点も欲しい。

(三浦座長)

- ・三の丸は、本来、広島城の本丸及び二の丸の東・南・西側を、倒したコの字で囲った部分である。資料で三の丸と挙げてあるのは、二の丸入口のところにある噴水と観光バス駐車場であって、本来の三の丸全てについては触れていない。上田委員のおっしゃるように、計画ではもう少し広く見直したほうがよいと思う。

(上田委員)

- ・資料3の40ページが分かりやすくゾーン計画を示している。これを見ながら、新しい基本計画について話をさせてもらった。

(三浦座長)

- ・三の丸だと、裁判所の裏に、かつての広島城三の丸の石垣が唯一残っている。また、本川の河岸に、福島正則がかつての外郭に造った櫓台が土手に埋没しており、少し上のほうが露出している状態になっている。このようなものが広島城の史跡指定外に、結構たくさん残っているが、有効活用できていない。現在ではお城に関して非常に熱狂的に取り組む人たちが多くなり、城郭ファンが以前と比べて格段に増えた。都市の中に残っているわずかなところま

で求めて見て回る人たちも増えており、かつての旧城内に残っているところも合わせて、計画に入れてもらったほうがよいかもしれない。

(大庭委員)

- ・今週末、若者で流行しているSUPをメインとした広島リバーシティフェスティバルが開催されるが、広島城を強調したパンフレットを作ってくれた。外国人も200人ぐらい来る中で、広島城を紹介したいが、植栽でお城が川から見えるだろうかと非常に心配している。
- ・特段広島城を目的としなくても、色々なスポーツフェスティバルから人を引っ張って来るような状況を作る。とにかく来てくれれば、歴史的なものも価値が変わってくるし、お金も落ちることで、他の予算も立てられるのではないと思う。何でも広島城に行けというような取組が必要かと思う。

(三浦座長)

- ・昨年から今年にかけて、福山城の中で鬱蒼と茂っていた木を伐採し、遠くからもよく見えるようになった。姫路城や彦根城も数年前に不要な木を切ったところ、遠くから非常によく見えるようになった。遠くからよく見えるというのは実は江戸時代の正しい風景であって、現在、城跡の中がジャングルのようにになっているのは、主に戦後になって樹木管理を怠ったためである。
- ・樹齢が70年を超えると、直径が50cmを超えるような大木になり、石垣を壊したり、眺望を害してしまう。植栽管理は非常に重要で、本来は保存活用計画に書くべきだが、懇談会の提言としても非常に重要になるので、ぜひ取り組んでもらいたい。

(飯田委員)

- ・広島駅、紙屋町、平和記念公園などからのアクセスは大切になってくると思うので、そこから広島城に来てもらえるような、案内やルートの整備、途中の面白い仕掛けで自然と広島城へ導くようなものが必要だと思う。
- ・京都の鉄道博物館が梅小路公園にあり、今は梅小路京都西駅ができたが、それまでは博物館の近くに駅がなく、京都駅から徒歩20分のルートをどうやって博物館まで導くのか、色々と仕掛けを地元と取組をした。そういうことも大切だと思う。
- ・そういう意味では広島城に行くために地下道を通るとするのはハードルが高い。
- ・大庭委員がおっしゃるように、天守閣が遠くから見えないと、なかなか行ってみようとは思わないので、遠くから見えるようにするべきだし、多くの人は二の丸方面から入ると思うが、そもそも天守閣があるのか、天守閣の中に入れるのかといったことは、分からないと思うので、そういうところに観光案内所が必要である。
- ・情報の発信ということでは、来年、広島県・広島市などの方々と、JRグループ6社が一体となって、せとうち広島デスティネーションキャンペーンを行う。10月から12月までの期間で、全国、北は北海道、南は鹿児島まで、共通のテーマで、パンフレットや告知をどんどん行う。広島城でも色々と改善していただき、私たちも告知や情報発信で協力させていただきたい。

(三浦座長)

- ・情報発信というのは一番大事なところで、大変参考になった。

(金城委員)

- ・上田委員と同じく、3年前から二の丸活性化の意見交換会の委員として、二の丸をどう活用す

べきか色々と検討してきた。実際に上田のお茶会や我々の伝統工芸展示会など色々させてもらった。

- ・観光客は、展示等を見てすばらしいというような意見や感想が多いが、実際に市民のうち、何人が広島城や二の丸を最近訪れたかということを考えれば、知り合いが何かやっているから行ってみようかなというぐらいのことで、情報発信をしても、ほとんどそれに響くものがない。市民のリピーターはまるで出来ていない。
- ・トイレの整備など、色々と不十分なところが当然課題として出てくるが、観光客も同じ感想であると思う。
- ・広島人の気質として、熱しやすく冷めやすい、一度冷めたらなかなか熱しないというものがあるが、例えば今から整備を検討していく中で、三の丸の商業施設が出てきたときに、観光客だけを相手にする施設をつくるのは、なかなか難しいと思う。広島の人がどういうものを求めているのか、ニーズを調査する必要がある。
- ・大庭委員がおっしゃった若者のニーズは非常に大切になってくる。その中で、私が最も大切だと思うのが、知のゾーンとして、商業施設に走らないよう、広島城一帯を文化的・知的・限定的価値をしっかりと見せる場所ということを最も大切な柱として念頭に置いておくことである。
- ・上田委員がおっしゃるように、全国に色々な参考例となる施設が現存していると思うので、視察に行っておくべきと思う。それぞれが自分の御都合で、視察をして頂き、ここで意見の交換ができるような場になれば良いと思っている。

(三浦座長)

- ・確かに他のところでは色々なことをやっており、若者や年配の方々は、観光地として見に来るだけでなく、そこで行われているイベントや、イベント以外でもボランティアガイドやお城を盛り立てるための色々な方々、例えば名古屋城の武将隊の織田信長を目当てに、毎日見に来ている人もいる。全国には色々な事例があるので、あちらこちらに行って、何をしているのか参考にされるのは良いことである。

(本田委員)

- ・現在広島城には、広島城、広島市文化財団文化財課、郷土資料館が共同で運営している「ひろしま歴史探検隊」というボランティアグループがあり、構成員約100人のうち、何人かは広島城でボランティアガイドを行っている。基本的に観光客向けで、結構好評だと聞いているが、出来れば市民にも来てもらって、ガイドからの話を聞けるような形に出来ればよいと思う。
- ・観光客を対象とした、非日常的なわくわくするイベントはとても重要だと思っており、最近の武将隊の演舞なども楽しいと思っている。それとは別に、3年前にプラタモリという番組に出演し、番組の反響を知りたくて、ツイッターを追いかけていたところ、番組の内容が結構地味なのにもかかわらず、若者に割と好評だった。若者はこんなことには興味ないだろうと思っていることが、実は興味がある、ああいう番組とかの発信の仕方によっては、確実に若者の心をつかむことができるのだというように思い、華やかなイベントも良いが、マニアックな知識を細かく配信するようなことも重要なように思う。
- ・配信の仕方としては、例えば、現地に来てもらうために、ユーチューブなどで広島城のこと

が分かる番組を作って配信し、実際にそれを見た人が、じゃあ行ってみようかというものが考えられる。

- ・ちなみに、ブラタモリのときに歩いたところを、その後、同じ場所で写真を撮っている若者が結構来ていたと聞いており、映像などで配信をして、それを見て関心を持って来てもらうという方法はあると思う。
- ・広島城の入館者数は、33万人と増えているが、キャパシティを超えるのではないかなと思う。以前、姫路城の経理担当の方と話す機会があり、当時、姫路城が観光キャンペーンを張ったところ、ものすごい観光客が来て、結局キャパシティを超えて、入場制限せざるを得なくなってしまった。苦情が大変多く寄せられ、経理担当としては困っているという話だった。来てもらうのはいいが、それをさばけるような方策を考える必要がある。

(三浦座長)

- ・キャパシティは大変重要かもしれない。姫路城のキャパは最大で250万人で、それ以上は無理であると聞いている。姫路城と広島城の決定的な違いは、姫路城天守閣は、階段を新しく一つ追加し、二つの階段を使うことで、一方通行として、かなり多くの観光客をさばけるようにしているが、広島城は階段が一つしかないので、広島城のキャパは半分以下になるはずだ。

(大庭委員)

- ・キャパシティに関して、ギリシャだったと思うが、早朝の入場料を安く、良い時間帯は高く、閉館間近は安くというように設定し、うまく観光客をさばいている施設があるので、やり方によっては何とかできるのではないかなと思う。

(三浦座長)

- ・他の城で、夕方何時か以降は入場料を安くしている事例が日本でもあった。

(辻委員)

- ・松本城の事例が既にあるが、改正文化財保護法の条件として、地方文化保護審議会を設立して、文化財保存活用地域計画を作らないといけないというものがあり、準備に時間がかかる。
- ・大阪城の事例ではPFI事業者が指定管理をしているが、広島城では、運営に携わっている人や法律は多岐多様に渡っており、手がつけられない状況にあるものを整理すればどうかと思う。
- ・広島城の周りをランニングできて、サッカースタジアムや天守閣がきれいに両方とも見えるイメージが出来ると良い。
- ・三の丸には、3階程度の商業施設で、イベントや小会議等が出来て、外国人のお客様が来たときに、広島城とサッカースタジアムを両方見てもらえるようなイメージで出来ると良い。そういうところに若者が集まるような形で、運営・組織を少し整理しないと、誰か発案しても動かない場合がある。その辺りはまた研究してもらいたい。

(三浦座長)

- ・議論は大変活発だが、もう終了の時間が迫っている。事務局のほうで何かあればお願いします。

(事務局)

- ・本日は貴重な御意見を頂いた。この御意見を参考にして、今後は、基本構想等について、提案という形で取り組んでいきたいと考えている。今後の懇談会については、今年度中に2回、12月下旬頃、3月下旬頃に開催する予定であるが、必要に応じて委員の皆様には、個別に相談

させていただくこともあると思うので、御指導・御協力のほどをよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

(三浦座長)

- ・それでは、第1回広島城のあり方に関する懇談会を、これで終了させていただく。ありがとうございました。